

平成29年 8月18日

各 位

会 社 名 株式会社エム・エイチ・グループ
本社所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目11-1
代 表 者 代表取締役社長 佐藤 文彦
(コード番号) 9439
問い合わせ先 経営企画室室長 家島 広行
(TEL) 03-5411-7222

営業外費用、特別損失の発生並びに通期業績予想値（連結及び個別）と 実績値との差異に関するお知らせ

当社は、営業外費用、特別損失の発生並びに最近の動向を踏まえ、平成28年8月16日に公表した平成29年6月期（平成28年7月1日～平成29年6月30日）の通期業績予想値（連結及び個別）と比較して、本日公表の実績値において下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の発生並びにその内容 貸倒引当金繰入額（連結・個別）

現在、当社グループは台湾において現地のフランチャイジーを通じてモッズ・ヘアサロンを展開しております。平成28年12月にフランチャイジーのうち1社より撤退の申し入れがあり、検討の結果、当社は本申し入れを受諾いたしました。これに伴い貸倒引当金繰入額30百万円を第2四半期会計期間（15百万円）及び第4四半期会計期間（15百万円）において連結財務諸表及び個別財務諸表に計上いたしました。なお、当社グループは新たな現地事業パートナーの協力のもと台湾事業の再構築を進めております。

2. 特別損失の発生並びにその内容 (1) 固定資産除却損（連結）

直営サロンであるモッズ・ヘア新宿サウス店の平成29年2月のリニューアルオープン及びモッズ・ヘア上大岡店の同年3月の移転リニューアルオープンに伴い、各店の店舗設備に係る固定資産除却損3百万円を第4四半期会計期間において連結財務諸表に計上いたしました。

(2) 店舗閉鎖損失（連結・個別）

(1) 固定資産除却損と同様に平成29年3月のモッズ・ヘア上大岡店の移転リニューアルオープンに伴う旧店舗の原状回復費用、並びにモッズ・ヘア青山プリヴィレージュ店の来春の移転及びモッズ・ヘア自由が丘店の閉店（平成29年8月）に伴う原状回復費用見積額等として店舗閉鎖損失9百万円を第4四半期会計期間において連結財務諸表に計上いたしました。

また、個別財務諸表におきましては前述のうちモッズ・ヘア自由が丘店の閉店に伴う原状回復費用見積額等として店舗閉鎖損失4百万円を第4四半期会計期間において計上いたしました。

(3) 減損損失（連結）

直営サロンであるモッズ・ヘア青山プリヴィレージュ店の来春の移転及びモッズ・ヘア自由が丘店の閉店（平成29年8月）に伴う店舗設備等に係る減損損失19百万円を第4四半期会計期間において連結財務諸表に計上いたしました。

(4) 関係会社株式評価損（連結・個別）

①台湾摩法股份有限公司（連結・個別）

前述の「1. 営業外費用の発生並びにその内容」に記載の事由、今後の台湾での事業展開、当社の台湾の100%子会社である台湾摩法股份有限公司の事業上の位置付け等を鑑み、同社に係る関係会社株式の簿価を回収可能額まで減額し関係会社株式評価損5百万円を第2四半期会計期間において連結財務諸表及び個別財務諸表に計上いたしました。

②株式会社アトリエ・エム・エイチ（個別）

当社の連結子会社である株式会社アトリエ・エム・エイチの株式について、株式の実質価値が著しく低下したため「金融商品に関する会計基準」に基づき減損処理を行い、関係会社株式評価損235百万円を第4四半期会計期間において個別財務諸表に計上しました。なお、同社に係る関係会社株式評価損は連結決算では消去されるため、連結業績には影響がございません。

3. 業績予想値と実績値の差異について

(1) 平成29年6月期通期連結業績予想値と実績値との差異（平成28年7月1日～平成29年6月30日） （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
予想値(A)	1,900	29	29	14	1.24円
実績値(B)	1,862	△39	△67	△127	△11.25円
増減額(B-A)	△37	△68	△96	△141	△12.49円
増減率	△2.0%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年6月期)	1,742	17	17	3	0.34円

差異が生じた理由

売上高につきましては、直営サロン運営事業においてはスタイリストの離職等により減少した売上高を補うには至らなかったこと、BSサロン運営事業においては主として国内BSサロンの減少に伴う減収等により、予想に対し37百万円減収（△2.0%）となりました。

営業利益につきましては、直営サロン運営事業においては、前連結会計年度中にBSサロンより直営サロンへ転換した2店舗、並びに新規オープンした2店舗の計4店舗の収益性は前連結会計年度に比べ改善しているものの、いずれも営業損失となりました。また、既存店においてはスタイリストの

離職等により一時的に収益性が低下し、特に大型店での影響が顕著であったこと、並びにリニューアルオープン1店舗及び移転リニューアルオープン1店舗の計2店舗に係る費用が先行して発生いたしました。また、BSサロン運営事業においては、売上高に記載の理由と同様に国内BSサロンの減少に加え、貸倒懸念債権に対する貸倒引当金繰入額8百万円を計上いたしました。一方、ヘアメイク事業及び美容室支援事業は堅調に推移したものの、営業利益は予想に対して68百万円減益となりました。

経常利益につきましては、「1. 営業外費用の発生並びにその内容」に記載のとおり、台湾において現地のフランチャイジーのうち1社の撤退に伴い営業外費用として貸倒引当金繰入額30百万円を計上いたしました。その結果、経常利益は予想に対して96百万円減益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前述いたしました営業利益及び経常利益の減少に加え、「特別損失の発生並びにその内容」に記載のとおり、特別損失として固定資産除却損3百万円、店舗閉鎖損失9百万円、減損損失19百万円、関係会社株式評価損5百万円を計上いたしました。また、翌期の見積り所得額の減少や法人税率及び繰越欠損金の控除限度額の引き下げ等により法人税等調整額10百万円を計上いたしました。その結果、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、141百万円減益となりました。

(2) 平成29年6月期通期個別業績予想値と実績値との差異(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
予想値(A)	700	15	14	1.24円
実績値(B)	675	△19	△273	△24.11円
増減額(B-A)	△24	△34	△287	△25.35円
増減率	△3.5%	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年6月期)	742	28	24	2.22円

差異が生じた理由

売上高につきましては、国内BSサロンの減少に伴う減収等により、予想に対し24百万円減収(△3.5%)となりました。

経常利益につきましては、売上高に記載の理由と同様に国内BSサロンの減少に加え、貸倒懸念債権に対する貸倒引当金繰入額8百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。また、「1. 営業外費用の発生並びにその内容」に記載のとおり、台湾において現地のフランチャイジーのうち1社の撤退に伴い営業外費用として貸倒引当金繰入額30百万円を計上いたしました。その結果、経常利益は予想に対して34百万円減益となりました。

当期純利益につきましては、前述いたしました経常利益の減少に加え、「特別損失の発生並びにその内容」に記載のとおり、特別損失として店舗閉鎖損失4百万円、関係会社株式評価損241百万円を計上いたしました。また、翌期の見積り所得額の減少や法人税率及び繰越欠損金の控除限度額の引き下げ等により、法人税等調整額5百万円を計上いたしました。その結果、当期純利益につきましては、287百万円減益となりました。

以上